兵庫県内の福祉施設で働く人達

vol. 7

目次

保護犬と楽しく暮らそう！ペットとの生活で障がい者もスタッフも生き生き・ニコニコ
（【川西市】障がい者グループホーム アニフルメゾン:代表取締役社長 構さん、世話人 長岡さん）.....2

犬とともに社会に貢献！人々を癒やす「セラピードッグ」のパワーでみんな笑顔に
（【伊丹市】日本レスキュー協会：セラピードッグ事業責任者 赤木 亜規子さん）.....11

スウェーデン発祥の触れるケア「タクティール」。言葉以外のコミュニケーションで愛を伝えよう
（【神戸市】特別養護老人ホーム エル・グレイス六甲：施設長 上坂 勝芳さん）.....24

視覚障がい者に道を示してくれる大切なパートナー、知ってるようで知らない盲導犬のこと
（【神戸市】兵庫盲導犬協会さん）.....34

すべては利用者さんの笑顔のため！心ひとつで仕事も人生も楽しくなる
（【神戸市】グループホーム紅葉：管理者吉田さん／介護スタッフ谷田さん）.....47

利用者さんの「はたらく」を応援！支援員のお仕事とは？
（【小野市】就労支援事業所・宿花（よみはな）：サービス管理責任者 向江さん）.....56

ひょうご介護アナウンス
CommCare

保護犬と楽しく暮らそう！ペットとの生活で障がい者もスタッフも生き生き・ニコニコ😊

保護犬・保護猫と一緒に暮らすことができる障がい者グループホーム「アニフルメゾン」。同じようなペット共生型の障がい者グループホームは全国に約 1,500 施設あると言われていますが、まだまだ社会の認知度は低いのが現状です。

3 匹の保護犬を飼っているアニフルメゾンの代表取締役社長・構大典さん（写真右）と世話人・長岡美知枝さん（写真中央）に、障がい者グループホームで保護犬がもたらす効果を伺いました。

「犬や猫の殺処分を減らしたい」
障がい者支援と合わせて社会のニーズに応える活動を

2021 年に設立されたアニフルメゾン。元々は空き家を生かした障がい者グループホームを検討していました。
なぜ保護犬とともに暮らせる障がい者グループホームを作ろうと思ったのかを代表取締役社長の構さんにお聞きしました。

（構さん）
犬が好きで、日頃から犬や猫の殺処分問題をどうにかしたいと思っていたんです。日本は動物の殺処分が多いという話を聞いて、心を痛めていました。

一方で、障がい者の親が高齢化して面倒をみれなくなったり、病院にも長期入院ができなかったり、障がい者問題も浮き彫りになっている現代。

そんな時、障がい者が保護犬と一緒に住めるグループホームがあることを知りました。「二つの社会的ニーズを解決できるサービス」であることと、「障がい者の支援と保護犬は相性がいい」と感じて、保護犬とともに暮らせる障がい者グループホームの開設に取り組むことにしました。

代表の構さん。会話の節々から犬への愛情が感じられました

保護犬がいることでスタッフと障がい者のコミュニケーションも円滑に

アニフルメゾンで働いて 2 年の世話人の長岡さんは、「保護犬によって利用者さんとのコミュニケーションがよりよくなった」と教えてくれました。

（長岡さん）

最初の頃は利用者さんがなかなか話してくれなかったり感情を見せてくれなくて、うまくコミュニケーションをとることができませんでした。

でも犬がいることで、人と接することが苦手な人もまるで小さい子どもをあやすように愛情表現を示してくれて、徐々に打ち解けることができたんです。膝の上に乗ったり、おやつをねだったり、時にはそっと寄り添ったり、言葉以外のコミュニケーションは動物ならでは。そのぬくもりにスタッフも助けられています。

世話人の長岡さん（右）。スタッフもみなさん犬好きの方ばかりだそう

効果は抜群！
利用者さんの日々の笑顔の源は３匹の保護犬

アニフルメゾンでは、４つのグループホームで３匹の保護犬を飼っています。ご飯をあげたり、お散歩に行ったり、日々のお世話を利用者さんとスタッフが一緒になって行っています。時にはお風呂に入れるようなおおがかりな作業をすることも。

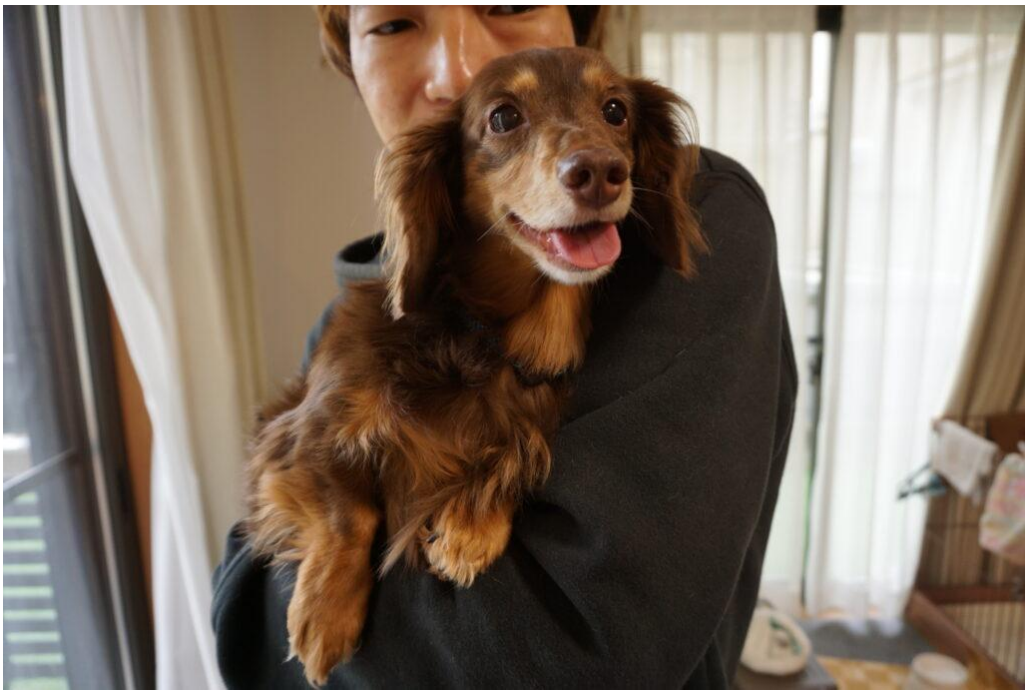
トイプードルのモナちゃん。とっても冷静沈着な女の子

3 匹の保護犬は一般のペットと同じように飼われています。リビングなどの共用スペースを自由に行ったり来たり。みんな犬と過ごしたくて、自然とリビングに集まるそうです。

「利用者さん同士の共通の話題になって、自然と会話も増える。よい影響しかありません」と構さんは笑います。

ポメラニアンのチョコくん。普段は強気だけど雷は怖い……

アニフルメゾン EST 清和台に住む利用者さんは「犬との生活がとっても楽しい。仕事から帰宅して、玄関で飛びついてきてくれる瞬間が一番幸せ」と教えてくれました。
編み物で帽子や服を作る利用者さんもいるんだとか。ここでは 3 匹の保護犬は、みんなのアイドルです。



ミニチュアダックスのココくん。人懐っこくて好奇心旺盛です

地域の方とのふれあいにも保護犬は大活躍

アニフルメゾンが保護犬を積極的に取り入れている最大の理由は、散歩に行って外に出る機会が増えるから。

障がい者の方や女性のスタッフでも安全にお世話ができるように、お迎えする保護犬は小型犬にしています。

（長岡さん）
普段引きこもりがちな利用者さんも、散歩ならば積極的に外に出てきてくれます。近所の方とお話することで、よい気分転換になっているみたいです。
私よりも社交的にお話される方も多いんですよ。

保護犬の存在は、地域の方とのふれあいにも一役担っているんですね。

散歩以外にも、アニフルメゾン EST 清和台にあるドッグランで犬とのふれあいを楽しむことも

保護犬とグループホームの相性の良さは◎
もっと世間に知ってほしい！

現在は兵庫県川西市に 4 つの障がい者グループホームを営むアニフルメゾン。
今後はもっと活動の幅を広げたいというお二人に今後の目標をたずねました。

（構さん）

今後はもっと外に出るような、地域の方とのふれあいを増やしていきたいですね。

2 月に利用者さんが近所のハンドメイド＆ワークショップイベントに編み物で出展したんですが、そのような機会が多くなったら素敵だなと思います。

また、保護犬をさらにお迎えして、救える命を一匹でも増やしたいです。

（長岡さん）

障がい者施設で暮らす動物にも、盲導犬や介助犬と同じように、社会的地位を築いてほしいなと願っています。特別な訓練を受けたわけではない普通の保護犬ですが、その癒やしの効果は身をもってひしひしと感じています。

殺処分される動物にもこのような活躍の場、社会的なお役目があることをたくさんの人に知ってもらいたいです。

保護犬や保護猫が介護の現場で輝ける可能性は、無限大ーー。

少しでも多くの命が、介護の現場で高齢者や障がい者と楽しく幸せに暮らす社会になればいいなと感じる取材となりました。

インタビュアー城月のひとこと

利用者さんが犬との生活を心から楽しんでいるのが伝わってきて、犬好きの私はとてもうれしくなりました。
スタッフも利用者さんも動物が好きな方ばかりだからか、とても温かくフレンドリーな雰囲気が印象的だったアニフルメゾンさん。
この記事で介護現場におけるアニマルセラピーについて広めるお手伝いができればうれしく思います。

【この記事を書いた人】

尾西 美菜子

印刷会社の企画編集部門でライターとして働いたのち、医療業界へ転職。現在は歯科助手として働きながら、フリーライターとしても活動する。趣味は御朱印集め、サッカー観戦、読書。

X（旧 twitter） @minako_writer

2024 年 2 月 14 日公開/2024 年 2 月 20 日更新（ひょうご介護アナウンス編集部）

犬とともに社会に貢献！人々を癒やす「セラピードッグ」のパワーでみんな笑顔に＾＾

セラピードッグという言葉を聞いたことがありますか？ふれあいや交流を通じて人々を笑顔にし、心と体のケアをするために訓練された犬のことです。福祉施設や小児病院、被災地などで活躍しているそう。まだまだ認知度が低いというセラピードッグの活動内容を、日本レスキュー協会のセラピードッグ事業責任者・赤木 亜規子さんにお話を伺いました。

はじまりは阪神淡路大震災

セラピードッグの育成・派遣を行っている日本レスキュー協会ができたのは、1995 年 9 月 1 日。同年 1 月 17 日に起きた阪神淡路大震災がきっかけで設立されました。

阪神淡路大震災では、海外からたくさんの災害救助犬がやってきましたが、当時の日本には災害救助犬がまだ普及しておらず、うまく活動することができませんでした。

倒壊した家屋や土砂の下敷きになった人を捜し出すために特別な訓練を受けた災害救助犬が活躍できていれば、助かった命があったかもしれない。日本でも、災害救助犬を育成しよう！そうして、日本レスキュー協会は生まれました。

その後、震災遺児のためのクリスマス会に招待され、犬と触れ合うことで笑顔を取り戻した子どもたちを見て、セラピードッグの育成にも取り組むことになったそう。現在では災害時にペットも一緒に行動できるように、ペット防災の普及活動にも力を入れています。

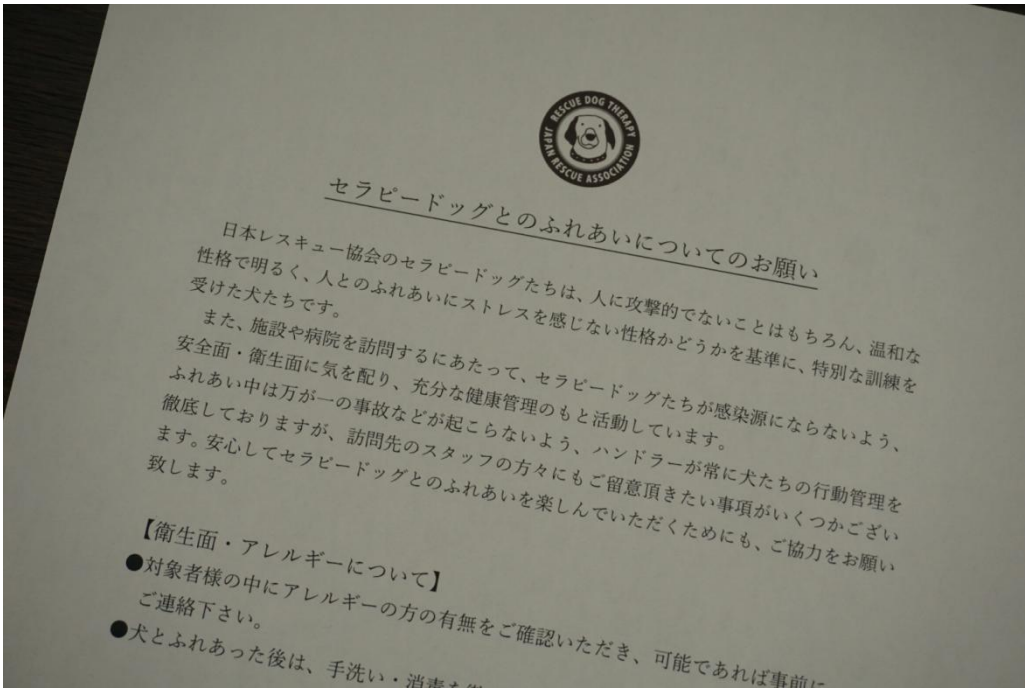
瓦礫などが用意された災害救助犬の訓練場

どんな犬が向いているの？

赤木さんにどんな犬がセラピードッグに向いているのかたずねたところ、「穏やかな性格で、社交性がある」と教えてくれました。犬種問わず、大型犬から小型犬までいるとのこと。中には元保護犬もいるそうで、動物福祉にも一役を担っています。

日本レスキュー協会では７頭のセラピードッグが活躍しています（令和５年 11 月現在）

赤木さん「個々の性格を重視して、育成しています。生後 8 か月から適性テストを実施し、大きい音を怖がらない、知らない人に囲まれても萎縮せずにお腹を見せるなどの項目をクリアした犬がセラピードッグになれるんです」



セラピードッグとのふれあいについてのお願い

日本レスキュー協会のセラピードッグたちは、人に攻撃的でないことはもちろん、温和な性格で明るく、人とのふれあいにストレスを感じない性格かどうかを基準に、特別な訓練を受けた犬たちです。

また、施設や病院を訪問するにあたって、セラピードッグたちが感染源にならないよう、安全面・衛生面に気を配り、充分な健康管理のもと活動しています。

ふれあい中は万が一の事故などが起こらないよう、ハンドラーが常に犬たちの行動管理を徹底しておりますが、訪問先のスタッフの方々にもご留意頂きたい事項がいくつかございます。安心してセラピードッグとのふれあいを楽しんでいただくためにも、ご協力をお願い致します。

【衛生面・アレルギーについて】

●対象者様の中にアレルギーの方の有無をご確認いただき、可能であれば事前に

ご連絡下さい。

●犬とふれあった後は、手洗い・消毒を

ふれあいの前にはしっかりと説明をしています

どんな訓練・活動をしているの？

セラピードッグの活動場所は多岐にわたります。子どもや高齢者、障害者など、心や体に傷を抱えた人とふれあうことが多く、福祉施設や学校、被災地や小児病院を定期的に訪問しています。

赤木さん「1 回の活動は約 1 時間。犬に触ってもらうのはもちろん、ボールを投げてもらって遊んだり大きな輪をくぐるパフォーマンスをしたりしています。日々のトレーニングもそれに合わせて行っています。

訪問時は、20～30 人の規模だとハンドラー（訓練士）2 人とセラピードッグ 2 頭で伺います。大型犬と小型犬など、タイプの違う 2 頭を連れていくことが多いですね。

シャンプーは月に 1 度行い、訪問前にはドライシャンプーをしています。感染症の予防接種などもしっかりしていますので、衛生面も安心してセラピードッグとのふれあいを楽しんでほしいです」

日本レスキュー協会があるのは伊丹空港の近く。そのため飛行機の轟音が定期的に聞こえてきますが、犬たちは全く反応せず。飛行機の音もいい訓練になっているのだとか

お腹を見せて歓迎してくれたハッピーちゃん。その人懐こさにこちらの緊張もほぐれます

犬とハンドラー（訓練士）は
かけがえのないパートナー

子どもの頃から犬が好きだったという赤木さん。昔から犬と関わる仕事をしていたのかと思いきや、この仕事に就く前はグラフィックデザイナーをされていたそうです。

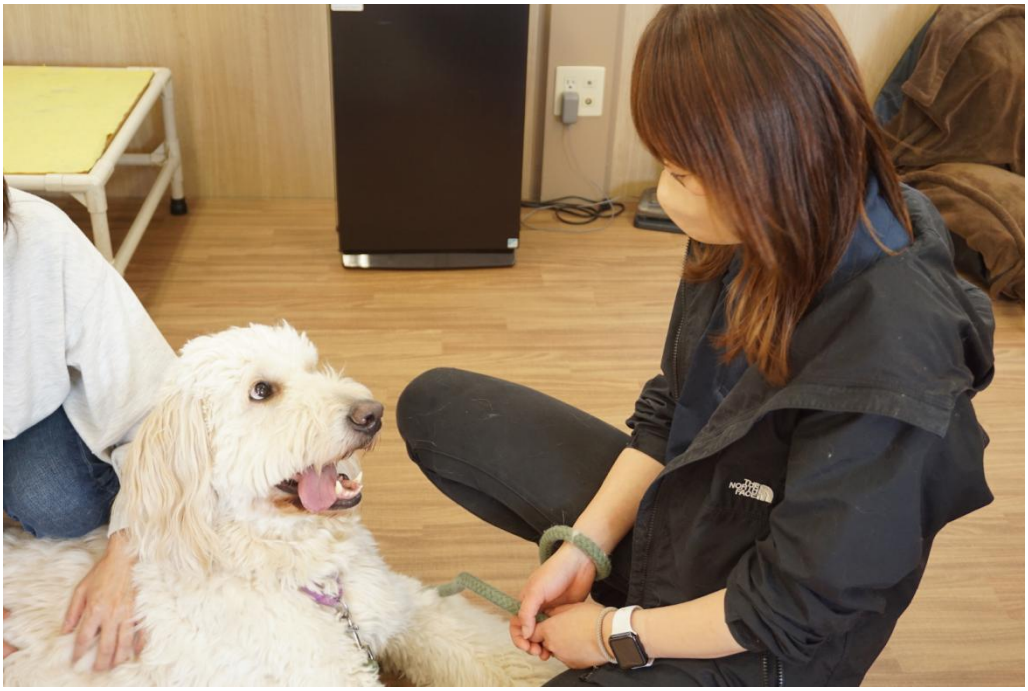
赤木さん「日本レスキュー協会が広報紙を作るボランティアを募集していて。それに応募し、お手伝いするようになったのがきっかけです。当時は働きながら日本レスキュー協会のスクールにも通っていました。

そんな時に、今はセラピードッグとして活躍しているハッピーのパピーウォーカーを探していて、私が預かることになったんです。そのご縁から声をかけていただき、職員として働くことになりました。そのままハッピーの担当になり、気づけば 7 年。ハッピーには本当に感謝しています」

今では一番の人気犬だというハッピーちゃん。赤木さんをはじめたくさんのスタッフの愛情を受けて、立派なセラピードッグとして活躍しています。セラピードッグが日々の訓練をこなし、人々を癒すお仕事ができるのは、ハンドラーとの強い絆があるからこそ。犬と人間が対等な立場でパートナーとして活動しています。そんなハンドラーになるために必要なことをたずねると、意外な言葉が返ってきました。

赤木さん「犬が好きなことはもちろんですが、対人のコミュニケーションが好きな人が向いている仕事だと思います。訪問先では子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方と接します。さまざまな人とのおしゃべりを楽しみ、犬の魅力を伝えられる方に、ぜひ目指してほしいです」

赤木さん（左）と城月（右）



ふれあいのふしぶしから赤木さんと犬たちの信頼関係が感じとられました

セラピードッグが人の心を動かした３つのエピソード

赤木さんに今までの活動で印象的だったふれあいを伺うと、３つのエピソードを教えてくれました。

小児病院で

赤木さん「小児病院には、外に出たことがない子や犬を初めて見る子もたくさんいます。そんな子どもが初めて犬と触れ合うと『中に誰が入っているの？』とたずねられることも。中に人が入っていると思ったみたいです」

老人ホームで

赤木さん「認知症のために感情を表現する事が少なくなった方がいたのですが、セラピードッグとふれあううちに、涙を流したんです！いつも無表情な方なので、みんなびっくり。後でわかったのですが、その方は昔犬を飼われていて、そのことを思い出したみたいでした」

被災地で

赤木さん「被災地の仮設住宅に住まわれている方がいて。その方は新しいコミュニティになじめずに引きこもりになってしまい、ボランティアの人が様子を見に行っても出てきてくれずに困っていたんです。しかし、セラピードッグが来ていることを伝えると、犬とふれあいたくて外に出てきてくれて。健康状態の確認もできて、ボランティアの方に感謝されました」

誰もが犬とのふれあいで笑顔になる――。心を元気にするお手伝いをするセラピードッグの役割を体現するようなエピソードに、私たちの心も温まりました。

心と体のケアにセラピードッグという選択肢が当たり前になる未来を目指して

現在は障害のある子どもと接することが多いそうですが、要望があればどこにでも駆けつけたいと、赤木さんはおっしゃいます。

赤木さん「医療や教育の現場と一緒に活動していけたらいいなと思っています。なんでも、ペットを飼っている高齢者は医療費が少ないというデータがあるそうですよ。犬でなくても、猫でも植物でも、その人なりの癒しを見つけて元気の源になればいいですよね。

残念ながら、盲導犬や介助犬と違い、セラピードッグはまだまだ世間に知られていません。いつの日か心と体のケアにセラピードッグという選択肢が当たり前になる未来を目指して、日々活動に励んでいます」

セラピードッグはみんな、触られるのが大好きな人懐こい犬ばかり。日本レスキュー協会では、誰でも参加できる見学会（要予約・定員 20 名）を行っています。興味のある方はぜひ足を運んでみてくださいね。
※現在はお休み中。次回開催日は未定

【日本レスキュー協会公式サイト】

https://www.japan-rescue.com/

ちょっと寄り道

訓練所で飛行機を見たら、もっと近くで見てみたくなって、帰りに伊丹空港に寄り道しちゃいました。スケールの大きな飛行機の離陸シーンにテンションが上がりましたとさ☆

インタビュアー城月のひとこと

ハンドラーさんとわんちゃんの信頼関係が随所で感じられる取材でした。赤木さんがハンドラーになったエピソードがとっても素敵で感動！セラピードッグを通じて、社会に対する視野が広がってほしいなと感じました。もっとたくさんの人にセラピードッグの活動を知ってほしいです。日本レスキュー協会は企業や個人からの支援で成り立っているとのこと。私も募金をして、少しでも役立てたらうれしいです。

【この記事を書いた人】

尾西 美菜子

印刷会社の企画編集部門でライターとして働いたのち、医療業界へ転職。現在は歯科助手として働きながら、フリーライターとしても活動する。趣味は御朱印集め、サッカー観戦、読書。

X（旧 twitter） @minako_writer

2023 年 12 月 15 日公開/2023 年 12 月 12 日更新（ひょうご介護アナウンス編集部）

スウェーデン発祥の触れるケア「タクティール」。言葉以外のコミュニケーションで愛を伝えよう

「スウェーデンのタッチケア」として広まりつつあるタクティールをご存知ですか？決められたメゾットにそって 10～20 分間触れ合うことで、驚きの効果があるそうです。タクティールの認定インストラクターでもある特別養護老人ホーム エル・グレイス六甲の施設長・上坂 勝芳さんにお話を伺いました。

みなと神戸の景色が見渡せる高台にあるキレイな施設

JR 六甲道駅からバスで約 10 分。大学生でにぎわう一角にエル・グレイス六甲はあります。施設長の上坂さんを含め、4 人のセラピストが在席し、特定の入居者さんにタクティールの施術を行っています。

上坂さんはここで働き始める前はケアマネージャーなどを経験したのち、株式会社スウェーデン福祉研究所にお勤めされていたそうです。そこではスウェーデンで 1 か月ほど研修を受けて、タクティールのこともその時に知ったと言います。

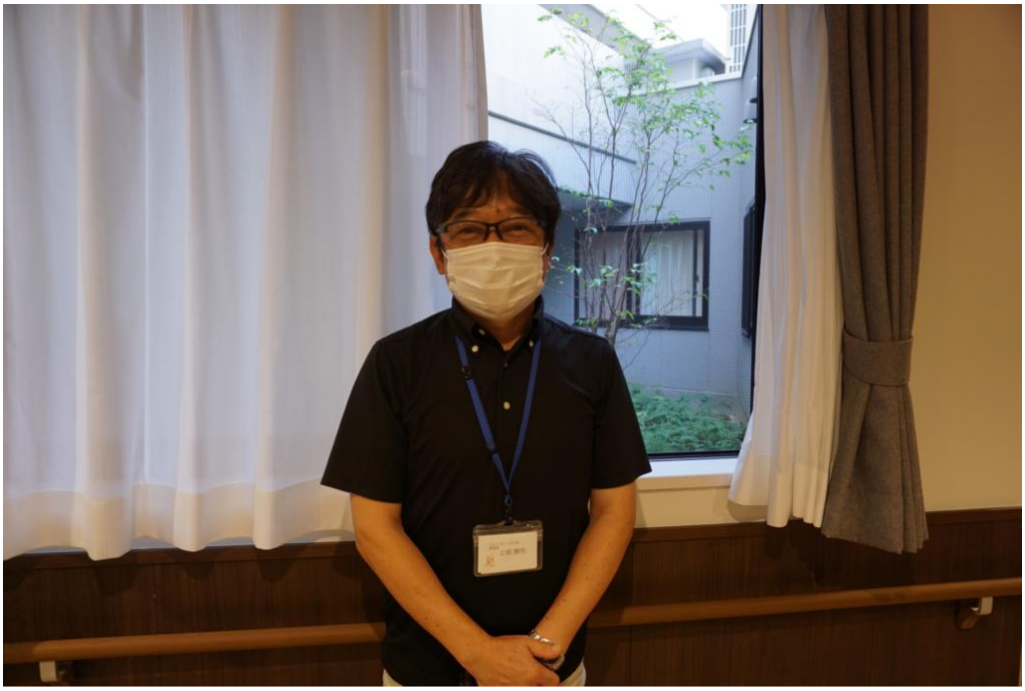
上坂さんは「日本とスウェーデンの福祉への考え方の違いに衝撃を受けた」と教えてくれました。本人の自立、自己実現の尊重、介護をする側もされる側も自分の生活を大切に自然体で生きていいんだと気づかされたそうです。

2021 年に建てられた新しくてきれいな施設

屋上から見える美しいみなと神戸の街並み

マッサージとは違うタクティールって、何？

押したり揉んだりは一切しないタクティール。マッサージとの大きな違いは「体のメカニズム」は関係ないということ。だから、セラピストのセミナーでも体のメカニズムを学ぶ工程はありません。そのため、医療従事者などの専門家でなくても、誰でも学ぶことができるのです。



決められたメゾットを覚えて順番通りに触れるだけ。タクティールの講座は中学生～80 代の方まで幅広く受けにくるそうです。癒しを求める家族のため、心に傷を負った被災者のため。目的はバラバラですが、大切な人のために誰でも気軽にはじめられること。それが、タクティールなのです。

「在宅で介護をされている方の中には『医療従事者に任せるだけではなく、自分にも何かできることはないか』と思っている人が多いんです。そんな人に、あなたにもできることがあるよとタクティールを勧めたいですね。毎日 10 分背中をさすってあげる。そんな関わり方を伝えています」
上坂さんはそう教えてくれました。

タクティールの施術を受けてみよう！

詳しいやり方は講習を受けていないので書けませんが、タクティールの簡単な流れを紹介します。インタビュアーの城月は別日にすでに体験していたので、この日はライターの尾西が施術を受けさせてもらいました。

まずは、手（手首～指先）、足（足首～指先）、背中（鎖骨～ベルト下）の 3 か所から施術場所を選びます。私は手をチョイス。ソファに深く腰かけて、リラックスした状態でさっそく施術を受けます。

クッションで見えませんが、足は上坂さんの両足でしっかりと挟まれています。こうすることで、安心感を与えることができるそうです。

タオルで両手をくるんで、オイルを塗ったら、スタートです。オイルは専用のものがありますが、市販のオリーブオイルでも OK とのこと（ただし食用のものは避けてくださいね）。プロペトを使われている施設も多いそうです。

専用オイルはオーガニックで無臭。刺激が少なく手によくなじみます。

両手で包み込まれたり、指先まで触れられたり。ゆっくりとした動作で丁寧な施術を約 10 分。とてもリラックスできました！

体験終了！それぞれの感想を伝え合うと…

尾西「手が柔らかく温かくなってびっくりしています。施術を受けていない左手が重く動かしにくく感じます」

上坂さん「それはタクティールを受けたことで活動範囲が広がったからですね。タクティールの施術後は普段スプーンで食事をする人がお箸で食べられるようになったりするんですよ」

城月「私はとても眠くなりました」

上坂さん「幸せホルモンのオキシトシンが出るからですね。安心して眠くなる人も多いです。不眠の人に寝る前にやったら眠れるようになったり。薬に頼らない生活にも、タクティールは役に立ちます」

尾西「指先にぎゅっと触れられたときに、自分の指はここまであるんだと、普段意識しない自分の体を感じることができました」

上坂さん「その触り方も意識してやっています。サッと流すように手を離されると、雑に扱われている気がしませんか？最後までしっかり触れることで、きちんと向き合っていることを伝えています。また、私がタオルを巻き始めてから施術が終わるまで、常にどちらかの手が触れていてひと時も離さなかったことに気づきましたか？足を挟むこともそうですが、それだけ安心感を大切にしているんです」

城月「尾西さんは静かに施術を受けていましたが、利用者さんはどうですか？おしゃべりをしたりするんですか？」

上坂さん「話しかけてくる人もいますが、基本黙って受けられる方が多いですね。話しかけられても、軽く相槌を打つ程度です。タクティールでは言葉以外の方法で『あなたと向き合っていますよ』『あなたが大切ですよ』ということを伝えています」

大切な人にタクティールを贈る社会になってほしい

現在はケアプランに基づいて必要だと判断した一部の入居者さんにのみ行っていますが、いずれは全ての方にできるようにしていきたいと考えているそう。スタッフも「私もできるようになりたい！」と意欲的な人が多く、みんなで取り組みたいと勉強会をはじめたところなんだとか。

しかし、エル・グレイス六甲さんのような施設ばかりではありません。タクティールに興味があっても、「忙しくて施術をする 10～20 分の時間を確保することができない」と諦める施設が多いのが現状です。上坂さんは、忙しいからこそ、考え方を変えてタクティールを取り入れてほしいと訴えます。

「後追いで仕事をするから、忙しくなるんです。何か症状が出る前に、タクティールでケアをする。そうしたら、不眠や多動が減って、仕事も自然と減っていきます」

「多動の人に毎朝 10 分手をさすっていたら、午前中じっと座っているようになった例もあります。介護や医療の現場で、先取り行動はとても勇気がいることです。施術をしても、必ず効果が出るかはわかりません。しかしスタッフみんなで協力しあって取り組むことで、チームワークが生まれます。タクティールは働くスタッフにも有益な効果があるのです」

また、タクティールは病気の人だけのものではないとも教えてくれました。
「年齢が上がるにつれて自然とスキンシップは減っていきます。日本人は照れ屋なので、特にスキンシップが少ないです。タクティールは夫婦円満の秘訣でもあります。体の状態に関わらず、大切な人に贈り合うものになっていけばうれしいです」

言葉を使わないからこそ、伝わることもある。それは、介護の現場で数多くの利用者さんと接してきた上坂さんだからこそわかる、タクティールの最大の魅力のように感じられました。対一で向き合って触れることによって、互いを思いやり、尊重し合うことができる。そんなことをタクティールから学んだ取材でした。これからタクティールが医療・介護現場や各家庭にもっと浸透してほしいなと思います。

※「タクティール」は日本スウェーデン福祉研究所の登録商標です。

インタビュアー城月のひとこと

インストラクターとしてはもちろん、講師としてたくさんの人の前でお話されているだけあって、とても心に響くお話が多くて、勉強会に参加した気分でした。タクティールを通じて人との関わり方を考えさせられる深い時間だったなぁ。私もタクティールを勉強して、友人や母にしてあげたいなと思いました。

【この記事を書いた人】

尾西 美菜子

印刷会社の企画編集部門でライターとして働いたのち、医療業界へ転職。現在は歯科助手として働きながら、フリーライターとしても活動する。趣味は御朱印集め、サッカー観戦、読書。

X（旧 twitter） @minako_writer

2023 年 11 月 24 日公開（ひょうご介護アナウンス編集部）

視覚障がい者に道を示してくれる大切なパートナー、知ってるようで知らない盲導犬のこと

視覚障がい者の歩行を安全に導く盲導犬。そんな盲導犬のこと、どのくらい知っていますか？
どんな風に育って、どんな風に訓練されているのかしら…
そんな盲導犬について知りたい！ということで、神戸市西区にある、兵庫盲導犬協会さんへ伺いました！

兵庫県神戸市西区。のどかに広がる田園風景の中に、兵庫盲導犬協会さんはあります。

もともとワンちゃんが大好き！盲導犬にも興味があり、先日訪れた見学会で知ったことを、ぜひ皆さんにも知ってほしい！と、あらためて取材に参りました。

-盲導犬協会って、全国にどのくらいあるんですか？

全国に 11 カ所あります。
北海道盲導犬協会、アイメイト協会（東京都）、日本補助犬協会（神奈川県）、いばらき盲導犬協会（茨城県）、東日本盲導犬協会（栃木県）、中部盲導犬協会（愛知県）、九州盲導犬協会（福岡県）、関西盲導犬協会（京都府）、日本ライトハウス盲導犬協会（大阪府）、兵庫盲導犬協会、そして日本盲導犬協会です。
日本盲導犬協会には神奈川、宮城、静岡、島根に訓練センターがあります。
神戸市に訓練センターがあることは、あまり知られていないなと感じます。啓蒙活動にも力は入れているんですけどね。

-そうですよね。ぜひ色々な人に知ってもらいたくて来ました！

ありがとうございます。

育ち方、財政面。
知ってほしい盲導犬のこと

–雨の日はここで訓練を？

そうですね。施設中で訓練したり、屋根付きのドッグランで運動させたりします。ショッピングモールなどで屋内訓練をすることもあります。

晴れた日には施設内の模擬コースで訓練するそうです。

–なるほど。いろいろと大変なことも多いんじゃないかと思うんですけど、その辺りお聞きしても良いですか？

何といっても財政面です。うちの財源は寄付と募金で成り立っているので、どうしても赤字体質です。時々、遺贈というかたちで多額の寄付をくださる方がおられて、それで何とか。

–それはますます皆さんに知っていただきたいですね。

はい。盲導犬は国家公安委員会の管轄なんです。白杖と同じ、歩行補助具という扱いになるんですよ。

–そうなんですね！初めて知りました。

一方で、夏の暑い時期に外を歩かせているのはかわいそうなど、募金活動に連れ出すことに対してのご意見などをいただくことも多いです。私たちも万全の体制で臨んでいるので、都度丁寧にご説明して対応しています。

–ワンちゃんって喜怒哀楽が表情に出るから、ワンちゃん自身を見てほしいなと思いますね。

そうですね。盲導犬といっても、ユーザーさんと家に帰れば普通のワンちゃんと一緒です。飛び跳ねたりもするし、甘えたりもする。家の中では愛犬と同じなんです。たくさんのワンちゃんを見てきて実感しますが、やはり家庭の中にいることが幸せなんだと思います。
外に出られるのは楽しいみたいですよ。ワンちゃんはお散歩が大好きですから。

あと、賢いからこそ手を抜くことも知っています。ここまでは怒られへんやろなとか、わかっていますね。

–賢いなあ！家庭の中といえば、預かって育てるボランティアさんがいるんですよね？

パピーウォーカーさんですね。訓練を始めるまでの子犬の期間、愛情いっぱいに育ててもらうんです。人も同じだと思いますが、小さいときはとても大事なんです。情操教育というのかな、人との関わり方を覚えてもらう。かわいがるだけじゃだめで、きっちり人との過ごし方や人間社会で生活するマナーもしなきゃならないし、「犬と暮らしたい」という気持ちだけでは務まらないです。

–深い愛情を感じますね。1年に何頭くらいが盲導犬になるんですか？

平均すると3〜4頭ほどですが、生き物なので必ずしも予定通りというわけにはいきません。いま盲導犬を待っていらっしゃるユーザーさんは5人くらいいらっしゃいます。申し訳ないとは思いますが、こればっかりは神の領域ですね。

盲導犬は兵庫県に33頭、全国で848頭が活躍しています。ガイドヘルパーサービスの充実や、ネットスーパーの普及などもあり、年々減少傾向にあります。

今年生まれたパピーちゃん。（公式 Instagram より）

-経費の面ですが、だいたい１頭あたり 500 万円かかると伺っています。

過去にあった盲導犬に関する裁判の事例で、500 万円という金額が出ました。ただ、実際に盲導犬になれるのは 10 匹のうち 2～3 頭くらい。ですから 10 頭の育成費を仮に２頭で割ると、少なくとも 700～800 万円くらいかかっている計算になります。

-盲導犬にとっての適性は？

健康なことはもちろんですが、大切なのは稟性。物怖じしない、落ち着いている、人が大好き、盲導犬のお仕事が好き、などですね。
いま育成中のパピーたちの親は、そういった適性のある子なので、3～４頭の盲導犬が誕生して活躍してくれればなと期待しています。

-ずっと気になっていたのですが、なぜラブラドールが多いんですか？

実は日本に初めて入ってきた盲導犬はシェパードだったんですが、少しコワモテですよね（笑）。ラブラドールは見ての通り穏やかな顔をしていますし、性格も穏やか。あとはゴールデンレトリバーも適性があるといわれます。大きさもちょうどいいんです。

そろそろ訓練の様子を見ていただきましょうか。

人にも犬にも個性がある。毎日が訓練です

基本訓練では 3～4 分の短い訓練を 1 日に何度も行います。ワンちゃんの集中力に合わせるためです。あとは一般のワンちゃんがお散歩するのと同じように歩いたり、走ったりして過ごしています。前日に行ったことの半分でも覚えていれば良し。３歩進んで２歩下がる感じです。

「訓練について」

1. **基本訓練**
   1 歳になったワンちゃんを、ハーネス無しで行う。まずはここに慣れようねという訓練。
   遊びながら行うことが多い。
   人の出した指示を聞いて犬が指示通りの動きをしたときに褒め、人との絆や信頼を築く訓練。
2. **誘導訓練**
   ハーネスをつけて人を安全に導くための訓練。
   障害物の回避や目的物の発見、左端をまっすぐ歩く、階段などの段差で止まってユーザーに教えるなど実際の生活を想定しての訓練。
3. **共同訓練**
   盲導犬を希望する視覚障がい者と、パートナーとなる予定の盲導犬が寝食をともにしながら行う訓練。
   食事、排泄、シャンプー、ブラッシングなどの世話や、市街地での訓練科目がある。

ハーネスをつけたとたんに訓練モードに！

–訓練をしていて「困ったな」と思うことはありますか？

その子その子で課題も違います。性格に合わせたアプローチの方法を探るのは大変だなと思います。毎日決まったところを行き来することが向いている子、いろんなところへ行くことを楽しめる子など性格もさまざまです。たとえばこの子はちょっと頑固なので、盲導犬として適性かどうかを見極めているところです。服従させるわけではありません。

上目遣いが可愛すぎる！

訓練士の方にも個性がありますし、毎回ちがうやり方だとワンちゃんが戸惑ってしまうので基本的に担当制です。ただ、徐々に別の訓練士に接する機会を作ることで、いろんな方法を吸収してくれるようになります。「訓練士だから動く子」ではなく、ユーザーさんの指示を聞いてくれる子に育てるためです。

難しいと感じるのは、ワンちゃんに私情を持たないようにすることです。信頼してもらうのは大切なのですが、依存してしまうのは防がないとと思います。

–わたしみたいに、ただワンちゃんがかわいい！好き！というだけでは務まりませんね。

だいたいどの訓練士も１頭目を送り出すときは泣いてしまいますね。教師と生徒という感覚に近いと思います。楽しいことは提供してあげるけど、情を入れすぎないようにしないと。

ハーネスをつけていないときは、甘えん坊。

–一般の方に、盲導犬と出会った時の心得などがあれば教えてください。

触らない、目を合わさない、口笛を吹かないなど、盲導犬の気を引くような行動は控えてもらいたいなと思います。最近では学校などでの講演活動を通して知ってくれる方も増えたと思います。

ここで一緒に生活しながら、訓練がんばっています！

最後に、施設内にある慰霊碑へ。

ここで訓練を受けた盲導犬やキャリアチェンジ犬、繁殖犬、PR 犬たちがここに眠っています。

-このお仕事をしていて良かったと感じるのはどんなときですか？

うまくいかないこともたくさんありますが、自分の訓練した子が颯爽と歩いている姿を見るとうれしいです！

取材後記

「偶然なんですけど、今日はこの１月に生まれたパピーが１頭帰って来てるんですよ」という一言にテンションがだだ上がりになった取材陣。

「えー！会うことはできますか？」
「もちろんですよ！」

そしてインタビュー中。

「失礼します。パピーです！」

好奇心が旺盛すぎて、うまく写真が撮れません笑

「キャー！！！！！！！！！」

まるで推しのアイドルにでも会ったかのようでした（笑）。

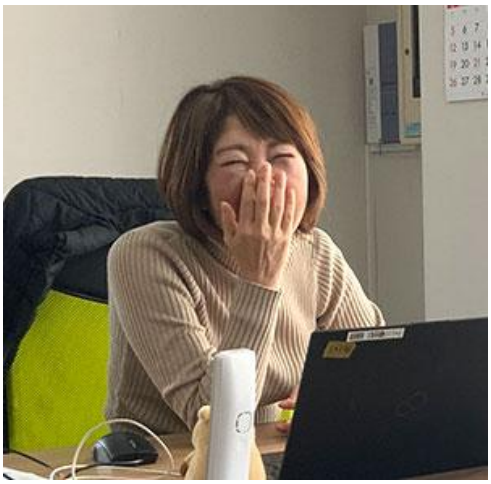
パピーウォーカーさんのところですくすく育って、立派な盲導犬になってね♪

もっと兵庫盲導犬協会のことが知りたい！という方は、公式 HP や Instagram にもたくさん情報が載っていますので、ぜひご覧ください！

兵庫盲導犬協会 HP
https://www.moudouken.org/

公式 Instagram
https://www.instagram.com/hyogo.moudouken2212/

インタビュアー城月のひとこと



盲導犬と一言でいいますが、それはとても大きな役割をもっています。
障がいをもった方たちの体の一部として一緒に人生を歩んでいきます。
それを支えている訓練士さんたちや職員さんの想いは私たちが想像できないくらい大きなことだと感じました。
とにかく一生懸命に訓練に励んでいるワンちゃんがかわいい！！
この取材を通して改めて犬の力、そして訓練士さん達の日々の努力を肌で感じることが
できてとてもよかったです。
これからも色んな形で応援できたらなと思っています。
盲導犬に遭遇したらそっと見守ってあげてくださいね。

2023 年 5 月 9 日公開（ひょうご介護アナウンス編集部）

すべては利用者さんの笑顔のため！心ひとつで仕事も人生も楽しくなる

「介護ってなかなか報われない」。そう感じている方も多いのではないでしょうか？介護の技術なども年々進歩しているとはいえ、さまざまな状況を抱える利用者さんと向き合うことは大変です。それでも、介護職だからこその魅力や素晴らしさがあるはず！そこで今回、神戸市長田区のグループホーム紅葉さんに伺い、管理者の吉田さん、介護スタッフの谷田さんにお話を聞かせていただきました。

インテリアデザイナーに小売業、大転身で介護の世界へ

ー吉田さんはいつ頃から介護業界に携わっていらっしゃるんですか？

（吉田）介護保険法が始まった頃なので、23、4年くらいになりますね。もともとインテリアデザイナーだったんです。

ーえー！それはまた大転身ですね！

（吉田）そうなんです。どうして？と思われるでしょう？笑

父が難病にかかってしまって、急に寝たきり生活になってしまったんです。昔気質というか、厳格で体も大きくて、ザ・昭和の父親という感じの人で、看護師さんに面倒をみてもらうなんてとんでもないと。かといって着替えひとつ手伝うにも、（体が大きくて）まあ動かない。どうすればいいのか途方に暮れていたときに「ヘルパー2 級」という資格を知りました。

当時は子育て真っ最中でしたし、学費もかかる。正直悩んだのですが、歩行や入浴など介助の仕方を学べるならと受講を決意したんです。

ー思い切りましたね。

（吉田）それはもう。でも、学び始めると感動の連続。あんなに重たかった父の体が、てこの原理で「ふい」っと動くんです！学んだことをひとつ一つ父で試していきました。実験台ですよ笑。「できる」という感動とともに、父の喜ぶ顔がいまでも忘れられません。

父の介護をする中で、何もできない人に対して「やってあげる」のではない、介護は「させていただく」のだということを知りました。

父は他界しましたが、ほんの少しでも介護させてもらえてよかったと思いました。

そんな私を近くで支えてくれていた夫が「お前にはこれが合っているんじゃないか？人のことを自分のお父さんやと思って、やってみたらどうや？」と言ったんです。「ほんまやわ！」って思ったのがこの業界に入ったきっかけです。ヘルパーの資格を取るときも、介護を仕事にと決めたのも、夫の後押しがあったからなんですよ。

ーそんなエピソードがあったんですね。感動です…！谷田さんも別業種から入職されたんですよね。

（谷田）はい。ここに来てちょうど 1 年になるのですが、それまで 25 年間小売業に携わってきました。小売業がどうというわけじゃないんですが、働く中で身体を壊してしまい、働き方を見直そうと考えるようになったのが転職のきっかけです。

ーどういったことがしんどかったのか聞かせてもらえますか？

（谷田）当たり前の話ですが、ものを売る仕事は売れて初めて評価されます。極端にいえば、お客様の動機が何であれ売れれば良いわけです。僕もはじめから深く考えていたわけじゃないんですが、販売に携わるうちにお客様の困り事を知り、それに対してどんな解決法を提案できるかを考えることが好きなんだと気づくようになりました。

でも、一人ひとりとのコミュニケーションに時間をかけるより、たくさん売らなければ成績は上がらない。そのあたりのバランスを取るのが難しくなって。上司に強く当たられることも増え、体調を崩して入院することになったんです。入院生活で看護師さんの働き方を見て、「患者さんのことだけを見て仕事している」と感じたことが介護の道に入ったきっかけです。

介護の技術は、利用者さんの「うれしい」のため

ー実際に働き始めてどうでしたか？

（谷田）最初に携わらせてもらったのはお風呂でした。ここで教わったのは「入浴介助という作業」ではなく、利用者さんにお風呂の時間を楽しんでもらうということでした。入浴も着替えもドライヤーも、技術は利用者さんに「気持ちよかった」と思ってもらうためのもの。作業として教わっていたらしんどかったかもしれません。

よく介護の仕事はしんどいと言われるのは、そのあたりの捉えかた一つなんじゃないかなと思うんです。そういったことを吉田さんから教わりました。

ー谷田さんご本人がそれを理解しているからこそ、吉田さんの思いが伝わるんでしょうね。

（吉田）谷田さんはとにかく真面目でまっすぐ。すぅっと筋が通って揺るがない部分があるんですよ。私が伝えることが100%正しいわけではないけれど、ここにこられる利用者さんは私たちよりもずっとご苦労されて来た大大大先輩なんだという思いだけは貫きたいし、彼にはそれがしっかりと理解してもらえていると感じますね。

ーお二人の信頼関係が伝わりますね。充実しているとはいえ長く携わる中で、やりがいを感じなくなったときもあったかと思うのですが。

（吉田）自分の思いを貫こうと思えば思うほど、周りとのギャップに悩むときはありました。私は利用者さん一人一人に対してその人らしい生き方を模索することでその方に必要な介護が見えてくると考えているのですが、周りに「そんなこと考えずに作業としてやれば良い」と言われてしまったり。効率も大事だけど、在り方を無視された気がして虚しくなりました。

ですが、それもバネにして、自分らしい支援をさせていただくようにしてきました。

ー谷田さんはいかがですか？

（谷田）だんだんと作業に慣れてきて、「なんか最近おもしろくないな」と感じた時がありました。介護の仕事に慣れたのではなく作業に慣れてしまっていたんです。利用者さんのこ

とを考えず、利用者さんを動かそうとしていた。楽しくないし、利用者さんも笑ってくれない。

ーどこでそれに気づいたんですか？

（谷田）吉田さんに鼻をへし折られたんです。笑

（吉田）あはは！そうやったね。ほとんどの人がそうなんですが、3ヶ月、半年、1年と様子を見ていると、だいたい半年過ぎた頃に「自分はできるぞ。大丈夫だぞ」の時期が来ると同時にミスが目立つようになってきます。言葉は丁寧でも、支援に愛情が感じられなくなるんです。谷田さんの場合も同じで、このままでは彼の成長が止まってしまう、もしくはまちがった方向に行くと感じたので「このままで良いの？」と。彼は志がある人ので、すぐに気づいてくれました。その後は何か気づきがあるたびに逐一話してくれるようになって。とてもうれしいです。

（谷田）その経験がなければ、続いてなかったかもしれません。

ー深い愛情を感じますね！

（谷田）はい。夜勤の業務を教えてくれた先輩も、「あんた危ないで気をつけや」と声をかけてくれました。吉田さんの思いが浸透している職場やと思います。

ー管理者で雰囲気が変わりますよね。効率のみを重視する事業所は暗いんです。事務員さんが挨拶すらしないとか。こういうところには人の紹介なんてできないなと。そういう意味でもここに谷田さんを紹介させてもらって正解でした！

（吉田）うれしい！

ー介護の仕事は３Ｋと言われがちですが、逆にこんなメリットあるよ！というところを教えてください。

（吉田）メリットというか、汚い仕事なんて言われるけど、いつかは歩む道だってことを伝えたいです。いまは若くて元気かもしれないけれど、確実に老いはやってくる。老いて身体が弱くなるのは、人生を頑張ってきたからこそなんだとわかってほしい。

お給料も高くはないです。お金はあって困ることはないけど、この仕事にはお金には換えられないものがある。利用者さんと向き合いながら試行錯誤する先に、お給料という報酬があるという順序を理解してほしいな。

面接なんかで「どうしてこの仕事に？」と聞いてみて、根本に「お金が一番」という価値観を持つと感じる人はすぐにやめてしまいます。そもそも３Ｋだと感じている人は、この仕事に合っていないと思うんです。

（谷田）僕は３Ｋだと思ったことはないです。周りからたまに言われるけど、「自分はできんだけやろ？」と。嫌ならやらなければいいだけで、働き方や仕事は自分で選べばいいのだと思います。そこがひっかかるなら、お互いにしんどいだけですよね。

僕はいまこの仕事を通してさまざまなことを学んでいます。一人の利用者さんに、何人もの人が関わるんです。どうすれば笑顔が増えるかな？と同僚や先輩と考えて実践するよろこび。こんなのは初めての経験です。

ー天職かもしれないですね。

（谷田）まったくストレスがないとは言えないけど、楽しく向き合わせていただいてます。

妻の見る目も変わりました。失業していた頃、かなり心配も迷惑もかけてきたんですけど、今は羨ましがっています。「私もそう思える仕事を見つけたい」と言ってくれる。ほんとうに、みなさんのおかげです。

ー夜勤も多いし心配してたけど、まさかのろけられるとは。笑

介護にとって大切なのは「心」

ー介護の仕事には向かないなと思うのはどんな人ですか？

（吉田）自分本位というか、支援を作業として捉えてしまう人かな。そして、なんといっても心がない人。人をモノとしてしか見られない人は、福祉に向いていないと思います。

技術を求められるところもあるかもしれませんが、技術は後でついてくるものだと考えています。まったくスキルがなくても、まず大切なのは心があること。利用者さんと真摯に向き合うことができるかどうかが重要です。人生の大先輩に対して、介護させていただくという想いがあれば、技術は働きながらゆっくりと学んでいただければいいと思います。

ーちゃんと人柄を見てくれる職場だということが伝わります。

（吉田）心がなければいい仕事はできません。

ーどんなお仕事でもそうですよね。

（吉田）福祉の世界は人の命を扱うところです。その重みがあるので厳しいことも言います。

結果的にうまくいけばいいのではなく、人の心や痛みを理解しているかを重視したいです。利用者さんが楽しんでいるか、うれしいと感じているか。主体は利用者さんだということだけは忘れないで欲しいです。

一生懸命、誠実、心がきれい。これが大切。谷田さんは満点！ほんと、ここに来てくれてよかった！

「そう言ってもらえたから１年間がんばることができました！」

ーすばらしい！そんなお二人に、これからの目標を聞いてもいいですか。

（谷田）初任者研修に合格することです。技術面だけでなく、包括的な観察力をつけたいし、いつどの利用者さんのことを聞かれても応じられるようになりたいんです。何ができて、何ができていないか、スルーしてしまっていることはないか？そのあたりを客観的に見る力を身につけたいです。

ーこれからの成長がますます楽しみですね！

（吉田）私も資格を取るなどして自分自身を更新していきたいです。介護の仕事はゴールがないし、奥が深いので、まだまだ知りたいことばかりです。

ー日々努力、日々成長ですね。

（吉田）ただ、自分にも周りにも「がんばらなくていい」と言いたい。生きているだけで人はみんながんばっているので、「ぼちぼち行こう」でいいと思うんです。

１日１日大切に生きていきたいですよね。

（谷田）吉田管理者の「おはようございます！」ってすごいんですよ。いつもパワーをもらえるんです。

（吉田）ちょっとうるさいかもしれんけど（笑）。

ー楽しく働いていることが伝わります。また、介護の仕事がいかに大切で、人生の一部であるかを感じました。本日はありがとうございました！

インタビュアー城月のひとこと

今回、インタビューさせてもらって初めて泣きそうになりました！！
吉田さんの介護の仕事に対しての向き合い方や考え方を聞かせてもらい私自身も介護の仕事ってどういう仕事なのか改めて考えることが出来てよかったです。

谷田さんはこんな素敵な上司の元で働けて幸せ！だからこんなに大きく成長したんですね！

お二人ともほんとに輝いていました！

2023年8月22日公開/2023年9月19日更新（ひょうご介護アナウンス編集部）

利用者さんの「はたらく」を応援！
支援員のお仕事とは？

身体や心に障がいを持っている方の就職や、働くことを支援する就労支援施設。耳にすることはあっても、具体的にどんなことをされているのか、また職員さんはどんなお仕事をされているのかを知りたくて、小野市にある就労支援事業所・宿花（よみはな）さんに伺いました！

利用者さんと一緒にお仕事しながら支えるお仕事！

サービス管理責任者の向江さんにお話をうかがいます！

-支援員さんはどんなお仕事をされているんですか？介護とはちがうのかな？とか、そのあたりの理解が曖昧で。

デイサービスなどの通所介護に近いイメージを持たれている方もいるかもしれませんが、就労支援は利用者さんの「はたらく」を支援するところです。また、就労支援には利用者さんにスキルを身につけてもらい、お仕事を探す支援を行う就労移行支援と、生産活動を行う就労継続支援とがあります。私たちの提供するサービスは後者で、ひとつのサービスではありますが、仕事（生産活動）をしてもらう場であるというところが介護と大きくちがうところです。

一般的な事業所では障がいに対する配慮を受けられないなどの状況を抱えた利用者さんに「はたらく喜び」を持ってもらうために、利用者さんの特性を把握した上で、私たち支援員も一緒に同じ仕事をしながら支えるというイメージです。

-利用者さんと同じ作業を行うんですか？

そうです。うちの場合、うどん屋、たこ焼き屋、菓子工房、農園など複数の事業があるのですが、それぞれの仕事を理解し、作業を教えることができるようになってもらいます。

サービス業が中心なので経験してみないと教えることはできないし、楽しいこともしんどいことも共有してもらいたいんです。

支援員さんにも向き不向きがあるので、そのあたりを経験してもらうこともより良い支援につながるのではないかと思います。

-支援員さんもひとりの人間ですものね。向江さんはもともと福祉のお仕事を？

私はもともと看護師として働いていて、福祉は未経験のまま宿花に入職しました。

就労支援どころか療育などのこともよくわからずでしたね。配慮ということに対しても過剰に考え過ぎるなど、失敗と反省の毎日でした。今でもそうですけど（笑）。

-支援員さんにとって大切なことは何でしょうか？

障がいに対する配慮は必要なので勉強はすべきですが、配慮と特別扱いは別物だという意識が必要ですね。作業が滞った場合などにはしっかりと注意するなど、ここには仕事をしに来ているのだという意識を持ってもらうようにしないと。

私たちも人間なので、言い方などの判断を間違うこともあります。だけど、間違いを恐れないことが大切です。

重要なのはその後。スタッフみんなでフォローの方法を考えるために、少しでも気にかかることがあれば共有して話し合うようにしています。管理者としてスタッフが話しやすい空気づくりが大切だと考えています。

働き方のちがい？就労支援Ａ型、Ｂ型って？

就労支援には

雇用契約を結ぶＡ型と、結ばないＢ型とがあります。

宿花さんではＡ型Ｂ型両方の就労支援を行っています。

（公式 Instagram より）

-A 型、B 型にはどのような違いがあるんですか？

雇用か非雇用かがちがいます。

通常の事業所での雇用は難しいけど、雇用契約に基づく就労は可能な方を対象とするのが A 型事業。通常の事業所での雇用が困難で、かつ雇用契約に基づく就労も困難な方を対象とするのが B 型事業です。

A 型では一般雇用と同じように給与が支払われるので、給与に見合った働きをしなければなりません。特性による配慮はありますが、基本的に一般の「仕事」と同じ扱い。事業所によっては面接もあるし、断る場合もあります。

一方、B 型では能力での評価はありません。定員オーバーしていない限り、希望のところで働けます。

同じ事業でも A 型と B 型の人で作業分担をしていて、より責任ある仕事をする A 型の方の姿を見て B 型の利用者さんが刺激を受けることもあるようです。

-すてき！A 型、B 型どちらの支援も行なっているからこそですね。

悩みながら、ともに成長できる

–支援員として利用者さんと関わる中で、よかったなぁと思うのはどんなときですか？

そうですね。たとえば、はじめは支援学校の延長のような感じで通って来ていた利用者さんが、徐々に仕事に対する責任感を持つなどの成長が見えたときはとてもうれしいです。

いくつか印象的なエピソードがあります。

家では何もできなかった利用者さんが、泣きながら包丁使いを覚え 3 年目にはグループホームへ。最終目標だった一人暮らしができるようになり、自分でお弁当を作るまでになりました。毎日同じことの繰り返しで嫌になることもあるかもしれないけれど、そういった成長が見えるたびに積み重ねの大切さを実感します。

また、精神疾患を持たれている利用者さんが「これまで色のない人生を生きてきたけれど、ここに来るようになって色がついた」と言われたことがありました。その方はその後一般就労されたんですよ。

–それは感動的ですね！いろいろな特性の方もおられるし、苦労されることも多いでしょうけれど。

そうですね。根本的に人間同士のやり取りなんだけど、やはり特性を持つ方への関わり方で悩むことは多いですね。精神、身体、療育などそれぞれ得意とする他の事業所さんと連携して学びあったりしています。スタッフ同士でも同じですが、一人で抱え込まずに相談してより良い支援を目指していきたいです。

実際にここで支援にあたっている方にもお話を聞くことができました。

特別支援学校で 12 年教諭として勤めていました。支援学校では人に手助けしてもらうことが多かった子たちが、日々学び成長する姿に驚くことが多いです。多少しんどくても「ここに来たい」「楽しい」とがんばる姿もうれしいですね。

教師という立場から支援員になり、「これをしなさい」から「これとこれ、どちらをやりますか？」と、自分で選択してもらう場面が増えたと思います。指導と支援のちがいですね。

なかなか伝わらないことも多いけれど、わからない子たちじゃない。わかるように成長してもらうことが大切だと思います。

–貴重なお話をありがとうございます！今日お話を伺って、障がいの有る無しに関わらず人と人とが向き合うことの大切さや素晴らしさを実感しました。

大切なことですよね。私たちもここで働いてくれる方のご紹介をコムケアさんにお願いする理由もそこなんです。便利な世の中になりましたが、相手の目を見て話すのは基本中の基本。本当に大事なことだと思うんです。人材紹介の業者さんはほかにもありますが、城月さんはこの基本姿勢を持たれているからコムケアさんにお願いしようって。

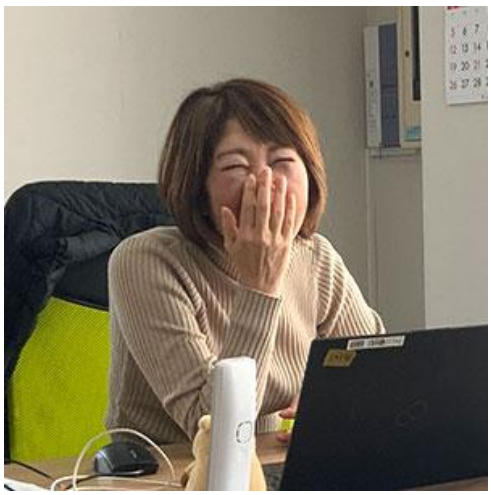
–うれしいしいお言葉、ありがとうございます！これからもがんばります！さいごに支援員のお仕事をやってみたいという方に、メッセージをいただけますか。

就労支援という仕事は、利用者さんの人生を応援すること。できなかったことができるようになった姿に感動することもあるし、何より私たち自身が毎日学ばせてもらっています。

とまどったり落ち込んだりすることもありますが、日々、この仕事をやっていてよかったなぁと実感しています。

とくに私は別業種から来たので、ここに来て世界が広がったと感じています。無資格でも大丈夫なので、ぜひ挑戦してみてほしいです。

インタビュアー城月のひとこと



支援員の仕事はまた介護の仕事と違っていますが、どちらにも共通して言えることは、“心を込めて仕事ができるか”どうか！

利用者さんと一緒に成長できる仕事って、なんだかすごく魅力を感じてしまいました♪

支援員のお仕事の奥深さを改めて教えていただきました。
無資格でも未経験でも福祉に真っすぐに向きあえる人ならとても魅力のある仕事ですよ！

あなたもチャレンジしてみては？

2023 年 9 月 29 日公開（ひょうご介護アナウンス編集部）

ひょうご介護アナウンス
CommCare

https://hyogo-kaigo.jp/

取材先募集中！

兵庫県内の介護・福祉・医療分野で働く人を特集しています。
取材・求人のご依頼などお気軽に！

https://hyogo-kaigo.jp/contact/

株式会社コムケア
〒654-0023
兵庫県神戸市須磨区戎町4-1-17
(TEL) 078-797-5580